

Japanese Society of Tropical Medicine Students' Branch

HIV勉強会運営報告書

2021年1月-2月



目次

勉強会概要	3
はじめに	3
到達目標	3
講演者一覧	3
日程一覧	4
勉強会報告	5
「臨床」グループサマリー	5
「差別・スティグマ」グループサマリー	6
「政策」グループサマリー	7
謝辞	8

HIV担当班 編

勉強会運営責任者

臨床担当

村上奨 国際医療福祉大学医学部医学科2年

臨床担当

岩崎もにか 大分大学医学部医学科5年

差別・スティグマ/政策担当

安田友子 鹿児島大学医学部4年

差別・スティグマ/政策担当

安藤新人 京都府立医科大学医学部医学科5年

差別・スティグマ/政策担当

川路日菜 自治医科大学3年

差別・スティグマ担当

葛島裕士 長崎大学医学部1年

政策担当

新野一真 京都大学医学部5年

本報告書における発表内容は、その責任と著作権を日本熱帯医学会学生部会が所有します。その内容のすべて、あるいは一部を、無断で複製・転載すること、インターネット等で掲載することは、理由の如何を問わず権利の侵害となります。あらかじめご了承ください。

勉強会概要

はじめに

第3タームのテーマはHIVである。HIVはいまだにワクチンは開発途上であり、十分なコントロールを達成するまでに課題が多く、LMICのみならず、先進国でも大きな疾患負担になっている。世界中で問題となっており、HIVを取り巻く課題解決には、多角的なアプローチが必要である。第3タームでは、「臨床」「差別・スティグマ」「政策」の3つの観点から、HIVに関わる問題点や、それぞれの視点からのアプローチについて学んだ。

到達目標

「臨床」「差別/スティグマ」「政策」の多角的な視点からHIVに関連する問題へのアプローチを学ぶことで、各分野への理解を深めることを第3タームの目標とし、具体的には以下の3つの到達目標を設定した。

1. HIV自体の病態生理と治療・予防について学び、基礎的な内容から、アカデミックな内容まで、知識を深める
2. HIV/AIDSがもたらしている社会問題について知る
3. IGO/GO,NGOの組織体系や基本的な概念から、各組織のメリット/デメリット、そして具体的なHIV/AIDS対策を学ぶ

講演者一覧

臨床分野講演者

長崎大学熱帯医学研究所
有吉紅也先生

差別・スティグマ分野講演者

東京女子医科大学
杉下智彦先生

政策分野講演者

The Global Fund to Fight AIDS, Tuberculosis and Malaria
國井修先生

日程一覧

1/14 20:00~21:30 臨床分野学生勉強会

1/22 20:00~21:30 有吉紅也先生講演会

1/29 20:00~21:30 差別・スティグマ分野学生勉強会

2/1 20:00~21:30 杉下智彦先生講演会

2/9 20:00~21:00 政策分野学生勉強会

2/19 20:00~21:30 國井修先生講演会

勉強会報告

「臨床」グループサマリー

2021年1月14日に行われたWeek1学生勉強会では、HIVに関わる問題の中でも、臨床という側面から、HIV自体の病態生理と治療・予防について学び、基礎的な内容から、アカデミックな内容まで、知識を深めることも目標に発表を行った。

学生勉強会では、HIV感染後の病態生理や経過、ARTなどの治療方法に関わる基本的な知識や、エイズ予防に関する数値目標「Fast track target」などを学んだ。

2021年1月22日には、HIVが脅威として認識された当初より最前線で研究に携わってこられた長崎大学熱帯医学研究所有吉紅也先生をお招きし、オンラインにてご講演を頂いた。HIV/AIDSが不治の病であった時代から、ARTという治療法が確立され現代にいたるまでのHIVと人類との闘いの歴史をまさにその目で見てこられた先生に、「HIVとの闘いの変遷とこれから」についてご自身の体験談を共有していただいた。

有吉先生ご自身のご経歴を振り返りながらHIVと人類との闘いの歴史についてのご講演の中では、長年HIV治療の最前線でご研究を続けてこられた中での先生ご自身のご研究であるHIV-2の病毒性のお話や、HIV治療のブレイクスルーであるARTなどについてご紹介いただいた。教科書に記載されている科学的事実だけでなく、実際に多くのHIVの患者の方を診てこられた先生のお話はとてもエネルギッシュで、学生一同時間も忘れる密度の濃いご講演であった。臨床や研究、政策など様々な分野を目指す学生の誰にとっても実りの多いご講演となった。ご講演の最後に、有吉先生が長崎大学で行われているロンドン大学衛生熱帯大学院との共同プログラムについてもご説明いただき、将来のキャリアプランに非常に参考になる情報も多く共有して頂いた。

学生勉強会、専門家講演を通して、Week 1,2「臨床」ではHIVのウイルスの特性や治療、予防について学ぶことができた。

文責:村上奨・岩崎もにか

「差別・スティグマ」グループサマリー

Week 3&4は「stigma・discrimination」にフォーカスを当てながら、HIV/AIDSがもたらしている社会問題について学生勉強会にて疑問を投げかけ、その疑問に対する各々の答えを求めながら、東京女子医科大学国際環境・熱帯医学講座の杉下智彦先生にご講演をいただくという形式で開催された。

2021年1月29日に行われた学生勉強会では、stigmaやdiscriminationの形や定義、HIVの歴史、U=U、医療従事者からPLHIVへの差別問題、などについて発表者から概説をし、以下にあげる3つの疑問を勉強会後に希望者でディスカッションをした。

差別の根本には何があるのか？
どうやって解決できるのか？
私たちにできることは？

これら3つの疑問を各々が専門家講演までに考えたうえで、2021年2月1日の杉下先生のご講演に臨んだ。

杉下先生は、外科医師、保健システム専門家、医療人類学者として、アフリカを中心に20年間に30ヶ国で保健システム案件の立案や技術指導に携わっていらっしゃる先生である。青年海外協力隊の外科医師として、当時成人のHIV罹患率が40%というアフリカのマラウイ共和国にて3年間で3000例を超える手術を行う経験をされた事をきっかけに、「病気にならない社会」を作ることをミッションにされている。先生の幅広いご経験と知識をもとにご講演いただくという運びになった。

先生には、アフリカにおいて外科医として数多くのHIVの治療に携わられてきたご経験をもとに、HIVに対する偏見・差別について事例を示しながら、偏見・差別がなぜ起こってしまうのか、コミュニティはどうそれを受け止めてきたのかについてお話していただいた。また、先生は医療人類学者でもあり、HIVに限らず偏見・差別一般について、その構造的仕組みや多様性をどう受け入れていくのが良いのか、日本における偏見・差別の問題も交えたお話もしていただいた。日本で一番HIVの治療に当たり、そのひとつひとつが抱える物語に触れてこられた先生のお話は、とても深く考えさせられることばかりであり、医療者を目指す学生にとって良い内省・問題提起の場になったと考える。

Week 3,4「差別・スティグマ」ではHIVが社会でどのように捉えられてきたか、そしてその現状について、主体性を持って考える機会ともなった。

文責:安田友子 安藤新人 川路ひな 葛島裕士

「政策」グループサマリー

HIVタームのWeek5&6は、IGO/GO,NGOの観点からHIV/AIDSに対する「Strategies」をテーマに学生勉強会と専門家講演を開催した。2021年2月9日の学生勉強会では、IGO/GO,NGOの組織体系や基本的な概念から、各組織のメリット/デメリット、そして具体的なHIV/AIDS対策に焦点を当てて学んだ。

IGOやGOなど多国間や国としての枠組みとして、どのような目標を打ち立ててHIV/AIDの問題に取り組むのか、また、NGOとして草の根で活動することなどのように、各ステークホルダーの特徴や規模、目的とすることなどを具体的に例を示しながら、学生勉強会は進行した。また、最後に、専門家講演を引き受けてくださった國井先生の所属されるGlobal Fundについても、その特徴や活動について概説した。

2021年2月19日の専門家講演では、Global Fund 戦略・投資・効果局長の國井修先生にご講演頂いた。國井先生はこれまで民(AMDA副代表)、官(外務省課長補佐)、学(長崎大学教授)、国連(ユニセフ保険戦略上席アドバイザー)を通じてアジア・アフリカ・中南米等110カ国以上で人道支援、地域保健、母子保健、感染症対策の実践・研究・人材育成に従事されている。現在コロナ禍の中も、グローバルファンドにて最前線でエイズ・結核・マラリア撲滅に向けて奔走されている。

講演会では、ユニークなキャリア形成と膨大な現場経験を通じて、各組織の特色やご自身のグローバルファンドについて、そして国際保健を志す学生達に今伝えたいメッセージをお話頂いた。講演の内容は、J-Trops会員から事前に集めた質問から、「HIV/AIDS収束に向けた各組織の取り組み」「COVID-19が与えた影響」そして、「先生ご自身の生き方」という3つのテーマに分けてインタラクティブに語って頂いた。

「HIV/AIDS収束に向けた各組織の取り組み」

第3タームのテーマであるHIV/AIDSに対して、IGOやNGO、そしてGlobal Fundなど各組織がどのようなStrategyを以って課題解決に取り組んでいるのかを先生の第一線での活動経験を共有していただいた。HIV/AIDS流行収束のためのステークホルダー間のパートナーシップを築き上げていくことの大切さとその難しさを國井先生のお話から改めて学ぶことができた。

「COVID-19が与えた影響」

現在世界中で流行するCOVID-19はHIV/AIDS対策へと、そして、私達の日常へと影響を与えている。世界各国の状況を俯瞰して、今世界でどのようなことが起きているのか、HIV/AIDSの対策はどんな影響を受けたのかを示していただいた。さらに、COVID-19の流行を医療の危機として捉えるだけでなく、未来のグランドデザインを描く好機とも捉え直すこともできることも事例を交えてお話頂いた。

「國井先生ご自身の生き方」

学生の質問の中でも、國井先生ご自身の生き方や考え方に関するものが多く、夢を追い続けた先生の生き方も気さくにお話しいただいた。学生勉強会で学んだ内容に加えて、さらに具体的な現場の状況をお示しいただき、将来これらの分野へ進むことを考えている学生達にとって大変貴重な機会となった。

最後に、自分の意見をロジックを構築し、付加価値をつけてアウトプットすることの大切さをメッセージとして頂いた。ダイバーシティが叫ばれる現在、若者が自分の意見をしっかりとアウトプットすることが求められているということは、複雑な課題や組織が交わる国際保健や熱帯医学の道へ踏み出そうとする私たちにとって、身の引き締まるメッセージであった。

Week5.6「政策」では、IGO,NGO,政府の3つのレベルに分けて、HIV/AIDSの予防や治療、差別軽減にどのように取り組んでいるかを学び、講演会ではGlobal FundのHIVに対する取り組みやCOVID-19のHIV対策への影響、自分たち自身のキャリアについて考える機会をいただいた。

HIVは依然として三大感染症の一つであり、人類が乗り越えなければならない感染症である。本タームのように、これまでの歴史や現状を学ぶことで、私たちが今後どのように感染症と向き合っていくか考えるきっかけとなりました。

文責：新野一眞 安藤新人 安田友子 川路ひな

謝辞

報告書の締めくくりにあたり、お忙しい中善意でのご協力を賜りました有吉紅也先生、杉下智彦先生、國井修先生、また、学生団体の活動に際し、たくさんのご支援と応援を頂きました、日本熱帯医学会理事の先生方に、心からの御礼を申し上げます。
ありがとうございました。

